

関係者各位

公益社団法人日本山岳協会 選手強化委員会

2016年 スポーツライミング国際競技会派遣選手選考基準 ～ボルダリング競技～

1 権限の所在及び決定の方法

国際競技会に派遣する日本代表選手を選考する最終的な権限は公益社団法人日本山岳協会にある。派遣選手を選考は、以下の基準に基づき、選手強化委員会が推薦し、常任理事会で承認することによって決定する。

2 派遣選手団の編成方針

- (1) 日本代表として十分な活躍が期待される選手の中から選考する。
- (2) オリンピック競技への追加を見据え、将来オリンピックで活躍が期待できる選手を選手強化委員会が推薦し、複数種目において国際経験を積ませるための選考ができる。
- (3) 行動規範を遵守し、日本山岳協会を代表するに相応しい選手・役員をもって編成する。

3 各国際大会における選手選考について

(1) 世界選手権大会（2016年9月 フランス）

① 選考方針

単種目での優勝を目指し、日本代表選手団として十分に活躍が期待できる選手の中から選考する。

② 派遣可能選手(IFSCルールより抜粋)

- a. 直近の成年またはユースの世界選手権または大陸別選手権の**優勝者**（優勝種目で登録のこと）を派遣することができる。
- b. 上の者とは別に各種目について各国で**最大5名**までの選手を派遣することができる。

③ 選考大会

- a. ボルダリングジャパンカップ
- b. IFSCボルダリングワールドカップ
- c. 直近の世界選手権（世界選手権・世界ユース選手権）
- d. 直近の大陸別選手権（アジア選手権・アジアユース選手権）

④ 選考基準

- a. 基本的には全ての選手の選考を国内選考大会の結果をもとに行う。ただし、特別な理由があり、大会へ参加できない場合はその通りではない。
- b. 直近の成年またはユースの世界選手権または大陸別選手権で優勝し、I F S C 枠保持選手として選考する。
- c. ボルダリングジャパンカップの優勝者から選考する。(最大1名)
- d. I F S Cボルダリングワールドカップ V a i l (アメリカ)大会終了時でのワールドカップランキング上位者から優先的に選考する。(最大5名)

⑤ 選考方法

選考基準を満たしている選手を、選考方針及び派遣選手団の編成方針に従って選手強化委員会で協議し、日本代表選手団の選考を行う。

⑥ 決定予定時期

2016年8月初旬

(2) アジア選手権大会 (2016年 中国)

① 選考方針

次年の大会参加枠を獲得するため単種目での優勝を目指し、日本代表選手団として活躍が期待できる選手の中から選考する。

② 派遣可能選手(I F S Cルールより抜粋)

各種目の各カテゴリーにおいて各国で**最大5名**までの選手を派遣することができる。

③ 選考大会

- a. ボルダリングジャパンカップ
- b. I F S Cボルダリングワールドカップ

④ 選考基準

- a. 基本的には全ての選手の選考を国内選考大会の結果をもとに行う。ただし、特別な理由があり、大会へ参加できない場合はその通りではない。
- b. I F S Cボルダリングワールドカップ V a i l (アメリカ)大会終了時でのワールドカップランキング上位者から優先的に選考する。
- c. ボルダリングジャパンカップで上位の成績から選考する。

⑤ 選考方法

選考基準を満たしている選手を、選考方針及び派遣選手団の編成方針に従って選手強化委員会で協議し、日本代表選手団の選考を行う。

⑥ 決定時期

大会開催時期が未定のため現段階では未定。

(3) I F S Cボルダリングワールドカップ2016

① 選考方針

- a. 単種目での優勝を目指し、日本代表選手団として活躍が期待できる選手の中から選考する。
- b. 年間チャンピオン及び国別ランキングトップを目標とし、各大会で日本代表選手団を選考する。

② 派遣可能選手(I F S Cルールより抜粋)

- a. その年の1月1日時点での成年またはユースの世界選手権または大陸別選手権の**優勝者**(優勝種目で登録のこと)を派遣することができる。
- b. その年の1月1日時点での出場種目の世界ランキングが10位以内の選手を派遣することができる。
- c. 日本以外での大会が開催される場合は、各種目の各カテゴリーにおいて各国で**最大6名**までの選手を派遣することができる。
- d. 日本で大会が開催される場合は、各種目の各カテゴリーにおいて**最大18名**までの選手を派遣することができる。

③ 選考大会

- a. ボルダリングジャパンカップ
- b. 直近の世界選手権(世界選手権・世界ユース選手権)
- c. 直近の大陸別選手権(アジア選手権・アジアユース選手権)

④ 選考基準

- a. 基本的には全ての選手の選考を国内選考大会の結果をもとに行う。ただし、特別な理由があり、大会へ参加できない場合はその通りではない。
- b. その年の1月1日時点での成年またはユースの世界選手権または大陸別選手権の**優勝者**(優勝種目で登録のこと)をI F S C枠保持選手として選考する。
- c. その年の1月1日時点での出場種目の世界ランキングが10位以内の選手を「**S代表**」として選考する。
- d. 前年のボルダリングワールドカップにおいて決勝に進出した選手を「**A代表**」として選考する。

※2017年からは2回以上決勝に進出した選手とする方針である。

- e. 将来オリンピックで活躍が期待できる選手を複数の種目で世界大会を経験させるために選手強化委員会から推薦する選手を選考することができる。ただし、1大会において**最大1名**とし、1シーズンにおいて**最大2大会**まで適用することができる。
- f. ボルダリングジャパンカップ2016においてS・A代表及びI F S C枠保持者、16歳未満の選手を除いた**上位10名**の成績を収めた選手を「**B代表**」とし、上位の成績者から優先的に選考する。
- g. 日本で開催される大会のみに限り国内大会枠としてさらに**最大上位8名**の成績を収めた日本人選手を選考する。

- h. 競技会の開催年に16歳に達している、もしくは年内に達する選手から選考する。
- i. I F S C 枠保持選手、S代表、A代表、B代表の選手を2016年ボルダリング日本代表選手とする。

⑤ 選考方法

- a. 選考基準を満たしている選手を、選考方針及び派遣選手団の編成方針に従って選手強化委員会で協議し、各大会において日本代表選手団の選考を行う。
- b. 各大会への参加は、S・A代表はすべての参加を認め、残った参加枠はB代表から参加者を募り、成績上位者から優先順に決定する。つまり、A代表とB代表を合わせ各大会において男女 **最大6名**の選手を選考する。
- c. 日本で開催される大会のみに限りA代表とB代表、さらに国内大会枠の選手を加えた男女 **最大18名**の選手を選考する。
- d. 選手強化委員会からの推薦選手1名を参加させる場合は、A代表に次いで優先的に大会参加させる。

⑥ 決定時期

2016年2月。

4 その他

I F S C ルールが変更した場合には、選手選考基準も準じて改定をおこなう。

2016年 I F S C 枠保持 及び S・A 代表候補選手等 一覧

- 1 I F S C 枠保持による候補選手
堀創・野中生萌（アジア選手権）、緒方良行（世界ユース選手権）
檜崎智亜・大場美和・中村真緒・中村颯人（アジアユース選手権）

- 2 S 代表候補選手
男子 藤井快、杉本怜
女子 野口啓代、野中生萌

- 3 A 代表候補選手
男子 堀 創、中野稔
女子 尾上彩

- 4 I F S C ボルダリングワールドカップにおけるオリンピック特別枠への候補選手
(1) 他種目のS代表候補者であること。
(2) 他種目の国内選考大会において優勝した者であること。
(3) 直近の成年またはユースの世界選手権または大陸別選手権の優勝者であること。